

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念と共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>私たちは、利用者の人格と生きる権利を尊重します。(住み慣れた地域のなかの一人として、その人らしさを大切に、なじみの暮らし方ができる居心地の良いグループホーム)</p>	<p>他地域から、入所してきた利用者がホームのある地域で自分らしく生きいきと職員、地域住民と共に地域の一員として過ごして頂ける様にしている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>利用者には尊敬の念を抱いて接遇させて頂いている。</p>	<p>その人らしさを大切に利用者本位の暮らし方(過ごし方)が出来るように支援している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居時に家族に説明している。又、運営推進委員会や町内の行事に参加することで地域の人々に理解してもらえるようにしている。</p>	<p>「グループホーム＝我が家」を理念に重ね、地域社会の中での近所付き合い、交流を大切にしている。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>町内会の集会、行事に参加している。地域にある保育園との交流もあり、行事の度に行き来している。運営推進委員会の中で認知症に関する質問、相談など受けている。</p>	<p>老人クラブへの参加、その他(運動会、芸能発表会など)地域での行事には進んで参加している。又、当施設の行事(宵宮、歌謡ショーなど)への招待も町会回覧板で配布している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>現在、ベストと思っているケアも外部評価により、普段気がつかない事への気付きのチャンスとなりケア水準の底上げになっている。</p>	<p>外部評価、運営推進委員会は閉鎖的になりがちな1ユニットの当施設では評価を改善に活かし入居者本位の支援に取り組んでいる。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームでの様子、行事報告、地域の方からは敬老会等の行事報告があり、そこで色々意見交換しホームでは地域との連携の強化とケアの改善に役立っている。</p>	<p>地域包括支援センターの方が当施設の推進委員会は話題が活発にされていてとても良いと話されていました。御家族・地域住民の方たちにも感謝している。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政担当者とは運営、課題解決等サービス向上に資する事での助言を頂いている。</p>	<p>入居者がグループ・ホームからの自立した暮らしがしたい、生活保護の申請等、市役所の健康福祉部、生活福祉部などへ相談、助言を頂いている。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加し、研修内容も職員会議にて度々学んでいる。ステーション本棚には成年後見制度、権利擁護の冊子もあり職員は入居者の認知症悪化により判断能力が不十分になる前又は、なってから等、本人の判断力に応じて「後見」「補佐」「補助」の制度等繰り返し学んでいる。</p>	<p>職員それぞれの力量にあった学習方法にて学び、解らない制度等があれば管理者、主任(ケアマネ)行政担当者に聞くなどして本人、家族、町内住民等からの相談に応じられるようにスキルアップをはかっている。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し、職員でそれを共有し、密室化になりがちな1ユニットだけのホームなので、ホーム内をできるだけガラス張りの援助をするようにしている。身体的虐待は言うまでもなく、無視、言動的虐待も見過ごさずしないように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に説明している。利用者、家族の不安、疑問点は契約後も、その都度説明し理解して頂くようにしている。</p>	<p>21年4月入居料金が上がり(サービス提供体制強化加算、理・美容代)利用者、家族に説明し契約を再度取り交わしている。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が職員に気軽に話しや相談ができるような関係、環境作り(家族と利用者が個室での会話ができる。ホーム玄関にご意見箱を設置)に努めている</p>	<p>日頃の利用者、家族との会話の中からさりげなく施設に対しての意見、要望などを聞き、察知し職員会議などで話し合い改善へと、又、法人全体の意見であれば所長会議等で話し合っている。運営推進委員会で話し合いが出来る用件であれば委員の意見も拝聴したい。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、毎月のホーム便りで報告している。健康状態、金銭管理はその時々で電話連絡する時もある。</p>	<p>健康状態に変化があった場合は家族へ連絡し状態観察の報告、利用者の金銭管理は半年に一度収支報告している。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等が気楽に職員に話し掛けれる雰囲気づくりに努めている。玄関にはご意見箱、国保連の苦情処理の連絡先も提示している。それらの意見はホームをより良くする為の気づきであり真摯に受け止めたいと思います。</p>	
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議での運営に関する意見、提案は、管理者は聞きそれを現場に反映させるべきものは反映させ、法人へ伺いを立てる。</p>	<p>年度初めの4月には法人全体(理事長、事務長、全施設の管理者とその全職員)による会議がありその中で現場の状況、法人の方針、をそれぞれ話し合う機会が持たれている。</p>
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な勤務調整に努めている。利用者の状況の変化、緊急時に備え職員の電話番号、組織図を作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人間の異動は最小限にし、移動、離職があった場合は、利用者のメンタルケアへ配慮する様にしている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>官公庁等への研修にはできるだけ参加させ、職員のスキルアップをはかっている。</p>		<p>研修に参加して習得してきた事は職員で共有し施設で実践していくようにしている。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人間の勉強会、県内、市内の研修にも参加し他施設の取り組みの良い点などは取り入れたり、サービスの向上を計っている。</p>		<p>法人本部ではブログを立ち上げ関連施設で共有しサービス向上に役立てている。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>昼食後のお茶を飲みながらのおしゃべり、又、互助会の親睦などでストレス軽減につとめている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の職員の良い点は助長し、認め、働きやすい環境になる様に努めている。</p>		<p>資格(介護福祉士、ケアマネ等)習得等で意識向上をはかっている。経験年数、正職、臨職(パート)にはこだわらず、仕事ができる、やる気のある、利用者本位の仕事ができる職員を育てている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人、家族の思いをゆっくり傾聴し一緒に解決できるように努力している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族が今現在何を必要とし、困っているのか見極め当グループホームで良いのか他サービス利用が良いのか対応に努めている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>住み慣れた家からホームに来て出来るだけ精神的な混乱、ダメージを最小限にできるように家で使っていた馴染みの裁縫箱等持って来て頂いたり、家で家事でやっていた事でホームでも出来る事があれば職員と一緒にやって頂いている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホーム = 家と言う事を共通理念として職員は利用者と生活している。利用者は祖父母で、父母であり人生の先輩として尊敬し良き関係を築く様にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時は、日頃の本人の状態、暮らしぶりを出来るだけそのまま伝え、離れて暮らしていてもお互いの良き関係を職員も一緒に築いていけるようにしている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来易いホーム作り、又職員にも気軽に話しやすい雰囲気になるように取り組んでいる。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会、家への行き来等支援している。毎月の新聞にて、ホームの状況報告等している。		生まれた所、暮らし住み慣れた場所の近い原風景を地域の中に見つけ散歩に出掛けたり、話をしたり支援している。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	観察し、把握するよう努めている。利用者だけで意思疎通が困難な時は、職員が中に入り会話が成り立つように配慮している。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も関連施設の概要で利用可能なこと等説明し理解して頂いている。		関連施設(老健)等に移り住んだとしても時々顔を出し元気な様子を見て職員も元気をもらってきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1.一人ひとりの把握</p>			
30	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとり落ち着ける場所や環境はさまざまです。本人の意向を一番に考えているが困難な場合は、2,3の事例を用意して本人自身が選択できるように援助している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の面接にて家族、本人から拝聴しホームでの暮らし方の参考にしている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの個性を大事に安心して穏やかに過ごせる暮らしが出来るように努めている。</p>	
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>普段の暮らし方(過ごし方)を洞察し、記録して本人、家族、職員でそれを共有して話し合い作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>一ヵ月ごとのケース会議、毎日朝、夕の申し送りの中から変化があった場合は検討し今現在の本人の状態にあった計画になるように本人、家族とも相談し柔軟に対応見直しできるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し毎日記録(ケア計画の出来た事、出来なかった事、何故出来なかったのか等)し何時でも誰でも見れる様にして共有、見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ここは家という機能をいかし出来るだけ本人の要望に柔軟な支援ができるようにしている。散歩、買物、ドライブ等。		その時々で本人の意向に添えない時もあり(職員の都合)そういう場合はアフターフォローを十分に支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の機能を生かし個々の利用者が必要としている地域資源について協力を得ている。		
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	包括支援センター、入居者のホーム入所前のケアマネージャーとの連携をしている。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月ごとの推進会議にて相談、質問などしている。その他でも適宜相談できるようにしている。		毎回の推進委員会に出席して頂いている。推進委員のメンバーの中には民生委員の方もいて地域の高齢者の現状など色々お互いに意見交換などしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の急変、普段の受診等いつでも適切な医療を受けられる様連絡を密にしている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医とは認知症についての助言は頂いているが特に専門医の受診支援はしていない。が、必要があれば専門医の受診をうけられるようにいつでも支援していく。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体施設(老健)の看護職員、かかりつけ医の看護師とは相談、支援できる体制を整えている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、見舞いに行ったとき、情報交換している。退院後のことも当施設他、関連施設での受入れも可能である事も話す。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、家族・本人に日常医療管理(点滴・酸素吸入・体調の急変等)が必要になった場合は関連施設の老健、又はかかりつけ病院へ入所、入院していただく旨を話して了解を得ている。関連施設老健の施設長(医師)・看護師長・介護長・かかりつけ医との連携は常にしている。		利用者の急変にそなえて入居者緊急連絡先(かかりつけ医の電話・家族連絡先電話)の組織図・マニュアルを作成し職員どうして定期的に確認しあっている。「入居者の重度化についての現状と介護方針について」を作成し家族にも配布している。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当施設での看取りは考えていない。入所時家族・本人に話して、了解を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	細かく情報交換している。本人のメンタルケアには細心のケアを心がけ、家からホーム入所時は馴染のものを持参して頂くなどできるだけダメージを防ぐよう配慮している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は事前に一人ひとりのケースファイルの個人情報を共有し、プライバシー侵害になるような言葉かけはしない様にし、記録にも配慮している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が職員に思いや希望を気兼ねなく話せるように普段からコミュニケーションを大事にし自己決定を支援している。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの自己決定を大事にしそれを優先し出来るように支援している。		一人で気ままに散歩したい人には本人が玄関を出た後職員が物陰からそっと見守り等している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員、家族と美容院にいたり、理容師もホームに来て自由な髪型にしてもらっている。又、その日の服も自分で選んで着ている。(たまに声がけて替えてもらう事もあるが…)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、盛りつけ、片付け等それぞれ得意な分野で手伝ってもらっている。利用者の体調により無理強いはいしていない。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙を希望する利用者はいないが状況に応じて支援していく。2ヶ月に一回外食の機会を持ちレストランなどで個々好きな食べたいものを注文して頂いて好評です。		毎日献立にも利用者の好みを聞きできるだけ取り入れた物にしている。
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンに合わせて対応している。便秘、下痢等の対応にも主治医の処方薬により調整している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後からになっているが回数、入浴時間はゆっくりと入れるように個々の希望に配慮している		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	私らしく暮らせるように家での生活リズムをそのままホームでも出来る様に支援している。		仏壇を自室に持ってきて水の取替え、お菓子のあげものなどしている人。お花屋さんだった人は、ホームにいつもきれいに花をいけてくれている。等等。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事活動への参加、ドライブ、買物、レク・趣味活動等、一人ひとり、活気ある日々になるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理している人もありいつもお金の計算をしたり、又ホームで管理し美容院、買物に行く時に渡している人もいて、力量に応じた支援をしている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、近所の神社や、児童館の草花を見に行ったりし、そよ風を心地よく感じたり、鳥の声を聞いたりすることで、五感に刺激を感じられるように支援している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事(遠足、花見、菊祭り等)レストランでの食事、また個別でのドライブなど外出出来る様に支援している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いている。電話番号のつながりの援助、手紙の代筆、読みの支援もしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂ける雰囲気作りを心がけている。又宿泊も可能である。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体束縛について周知しており、束縛のない生活を実践している。定期的にマニュアル確認を職員間でしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、玄関の鍵をやむを得ずかけていたが現在は施錠していない。外に出掛けたい利用者には職員が付き添ったり、物陰から見守りしている。玄関のチャイムは取り付けている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の日常を監視するのではなく、個々の様子を目配り、気配りで安心、安全に配慮して過ごしていただいている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品、洗剤等は、目、手の届く所には保管しない様になっている。いつも使う手あらいの石鹸、炊事の洗剤は適所に置いて職員が気配りし事故のないようにしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護事故、および、ひやりハットについての基本(5W1H)を職員全員で定期的に会議の中で確認し5W1Hの書き出している用紙を職員の目の届く所に張って常に目を通す様になっている。		もし事故があった場合は、小さい事でも書き出す様にしそれを職員全員で共有し全員の問題として受け止めている。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	講習に参加し、定期的に訓練もしている。		関連施設などで講習があれば職員が参加し職員皆が応急手当、各連絡網にすみやかに連絡できるように訓練している。マニュアル作成もしている。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	年2回、昼、夜を想定しての訓練している。町内の人で結成された、地域災害協力隊の協力にて組織図も作成している。水害の場合は近くの小学校、地震の場合は外に飛び出さず施設内のホールに集まるなどのマニュアル確認をしている。		飲料水・食料の保存と母体からの災害援助支援も確認している。又、災害時は近隣住民の施設受入れ支援も出来るようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p> <p>その人らしく、自由に暮して頂く為に、起こりうるリスク面について家族に理解してもらい、安心、快、健やかに日常を継続出来る様に配慮している。</p>		<p>リスク面での対応策を一人ひとりのファイルと、職員会議録に記述している。それを職員で共有している。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>入浴日毎(週2回)バイタルチェックと体調の変化がある場合は朝、夕の申し送りのとき職員同志で共有、対応を話しあっている。緊急時は主治医との連携も整えている。</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>薬の目的、用量はファイルにまとめられていて職員が確認し、服薬の支援をしている。</p>		<p>服薬の確認。1、薬局から届いた時点で医師の処方どおりの薬かの確認。2、分包時(朝、昼、夕、夜)の確認。3、手渡す時に名前の確認。4、服薬されたかどうかの確認。また、症状に変化があった場合はすみやかに担当医に連絡する体制をとっている。</p>
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>食事の量、水分補給量、排便の回数と量のチェックの記録をし、便秘している時は記録を参考に対応している。又、散歩、掃除、炊事や、毎日のレク、体操で適度の運動もして頂いている。</p>		<p>できるだけ、座薬、下剤に頼らないケアを心掛けている。毎朝食の牛乳も便秘防止としています。</p>
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後、就寝前、うがい、歯磨き、義歯の洗浄、励行を援助している。一人でできない人にも支援している。</p>		<p>義歯の不具合、口内炎、口臭等への配慮と歯科医師との連携をその都度している。歯科医師にはホームまで来て診察して頂いている。</p>
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>食事量、水分量、体重の記録をし、個々人の状態を把握して支援している。</p>		<p>職員は利用者の食の好みを把握して食事の提供をしている。いつも食べている食事その時により進まないことも私たちにもよくあることです。その時は冷蔵庫のなかの食材からすぐ支度できる食事の提供をしている。又、母体栄養士からの助言もいただいている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルがあり、母体施設の勉強会などに参加し情報を共有している。		職員会議などで見直し、確認、共有して職員相互で情報交換などしている。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具はその都度消毒し、食材も冷蔵庫はあまり過信する事なく毎日、新鮮な食材を購入するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇には、果物、野菜、花を植え、利用者が隣人と挨拶したり、会話をして水やり、草取りなどし環境に配慮しつつご近所づきあいもしている。		近隣の人達にとっても「グループホームあけぼの」の存在が浸透しつつあり御家族、近隣の人達にも気軽に来所していただきたい。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある生け花や、壁画などで季節を感じていただいたり、季節の食材を食事メニューにも取り入れている。採光も適度の明るさとテレビの音量などにも配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールをサロン風にし、入居者が気の合う仲間とお喋りしたり、テレビを見たり一人ひとりの自分の居場所作りを援助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>仏壇、冷蔵庫、筆筒等なじみの品を持って来ている。そして、家にいた時と同じ雰囲気とペースで過ごしていただいている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気は1日の中で随時心掛ける様にし、来客がきても違和感のないよう配慮している。夏、冬の温度調節も利用者がどう感じているのかが大事であって、職員の都合に合わせることはしない様になっている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの身体機能に合わせた居室配置にしている。トイレ、ホール、食堂への移動等、安全の為に周辺環境整備にも工夫している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>プライド、羞恥心を守り出来る事は助長し、失敗したとしてもその場、その場を良い気持、良い感情で過ごせる様に工夫している。</p>		<p>今まで出来た事も、体調不良、想起障害等にて出来ないこともあるが、そのときは不安にならない様に接し今、出来る事をして頂いている。</p>
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ホール、和室、自室と建物全体が一つになっているような配置になっているので、その中で入居者は自由にテレビを見たり、和室で洗濯たたみをしたり、自室で筆筒のなかをかたづけたり、思いおもいに過ごされている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々、利用者の思いに職員は答える支援を提供できるように配慮している。が、利用者9人全員、それぞれの思いに答えることが出来ない時もある。その利用者には後でそっと寄り添うケアをしている。